「三田市財政構造改善」の骨子について

令和6年8月

財務部財政課

目次

1策定の背景
（１）策定の必要性
（２）本市の財政運営を取り巻く状況
２財政構造改善の取り組みの視点と方向性
３財政構造改善の骨子
（１）目標
（２）取り組み期間
（３）主な歳入増の取り組み
（４）主な歳出減の取り組み
（５）主な取り組みと目標効果額等
４今後の流れ
５効果の検証と進行管理

１策定の背景

（１）策定の必要性

「消滅可能性自治体」には該当しないが、本市でも子ども・若者の減少は続いており、このままでは本市の活力は衰退するという危機感が共有されている。様々な行政需要に対応するため、これまで網羅的な色合いが強かったまちづくりから「核となる施策を通じた、メリハリのあるまちづくり」へのシフトが必要。

今最も急がれる『こどもを核としたまちづくり』に対して、全ての施策を対象に再構成を行う「子ども施策の再体系化」により、限られた財源を効果的に配分し、政策を確実に推進するとともに、将来に向けて財政の安定性・弾力性をより高め、大規模投資等の時代を迎えても必要な財政負担に耐えうる行財政のあり方へと改善していくことが必要

「行政経営方針」に基づく既定の取り組み（行政経営アクションプラン）を、歳入増加及び歳出削減の観点から個別具体的な項目に見直すとともに、新たな課題に対応する取り組みを追加した「財政構造改善プログラム」を作成する。

１策定の背景

（２）本市の財政運営を取り巻く状況

【予算】

近年の当初予算編成において、多額の財政調整基金を活用しなければ収支均衡を図れない過度に基金に依存した予算編成。

【決算】

決算では平成30年度以降、財政調整基金の取り崩しは行わず、平均5.6億円の黒字を計上し、実質単年度収支も黒字を確保。

【長期財政見通し】

多くの大規模投資事業を控えており、今後10年間で約46億円の収支不足を見込む。

【市民サービスのあり方】

コロナによる市民生活の変化に対応するためデジタル化を進め、市民サービスの利便性向上等に取り組んできた一方、以前からのサービス提供手法など事務や業務のあり方に係る見直しが十分されていない。

１策定の背景

（２）本市の財政運営を取り巻く状況

（単位：億円）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
【当初予算】財政調整基金取崩額	4.9	1.4	1.4	2.9	5.0	2.3	8.8	9.1
【決算】財政調整基金取崩額	3.7	0	0	0	0	0	0	―
【決算】年度間財源調整基金保有額	36.0	38.0	42.2	45.4	49.6	55.5	60.1	―
【決算】実質収支額	4.1	4.8	5.8	4.7	8.9	4.8	4.7	―
【決算】実質単年度収支	▲3.3	0.7	5.1	2.1	8.0	0.8	2.6	―
【決算】債務残高（財源補てん地方債除く）	194.1	175.0	161.5	145.9	137.9	129.8	128.7	―

※年度間財源調整基金…財政調整基金及び減債基金
※実質単年度収支…単年度収支に黒字要素となる基金の積み立て額等を加え、赤字要素である基金の取崩し額を差し引いたもの
※R5年度決算の数値は見込み、R6年度は当初予算ベース

２財政構造改善の取り組みの視点と方向性

【視点】

・市民生活への影響を最小限にした改善

・今の時代に適合した改善

・これからの時代を見据えた改善

課題	解決に向けた取り組みの方向性
◆予算と決算の乖離が大きすぎることで、決算をコントロールできず、また時機に応じた新たなチャレンジに十分な予算を配分することが困難。	◎決算をコントロールするため予算と決算の乖離を是正する。 ◎内部事務を中心に時代にそぐわない・非効率な事務事業を見直す。 ◎基金を有効活用し、財政構造を改善していく。 ◎十分な検討や調整を要することが想定されるため、取り組み期間を複数年に設定する。
◆長期的な財政運営において、経常的な赤字の解消及び大規模投資事業による財政負担増への対応が必要。	
◆コロナ禍を経て大きく変容した社会状況に合わせた行政サービスの最適化を図ることが必要。	

３財政構造改善の骨子

（1）目標

【期末】

R9年度までに基金取崩しに依存しない実質的な収支均衡を達成し、それを当初予算で担保する。

↓

・予算…**<u>財政調整基金取崩し2.5億円以内</u>**

・決算…**<u>実質単年度収支の黒字を確保</u>**

【各経過年度】

・年度間財源調整基金の保有額…**<u>46億円以上</u>**

・取り組みによる効果額を積み上げるとともに、財政調整基金を有効活用し、段階的に収支均衡を達成する。

（2）取り組み期間

R6年度からR8年度まで（評価年度：R7からR9まで）

３財政構造改善の骨子

（3）主な歳入増の取り組み

項目	取組み内容の例	目標効果額 （対R6年度比）
ふるさと納税 の拡充	・返礼品の選択拡大や寄付の使途明確化 ・新規寄附者の拡大とリピーターの確保	**125百万円**
受益者負担 の適正化	・施設使用料を算定するサービス原価や受益者負担についての考え方の整理及び所要の使用料、手数料等の改定	**99百万円**

３財政構造改善の骨子

（4）主な歳出減の取り組み

項目	取組み内容の例	目標効果額 （対R6年度比）
内部事務の見直し	・封筒等共通用品の品目の変更及び追加 ・会議等ペーパーレス化の徹底 ・公用車の台数の見直し	**17百万円**
総人件費の抑制	・業務の見直し等業務量の削減の徹底による時間外勤務手当の削減 ・空調開始時期や温度設定の見直しによる時間外勤務の削減	**35百万円**
窓口改革の推進	・窓口事務処理体制の見直し ・利用実態に応じた開庁時間の見直し	**46百万円**

３財政構造改善の骨子

（4）主な歳出減の取り組み

項目	取組み内容の例	目標効果額 （対R6年度比）
事務事業の最適化	・多額の予算決算乖離が生じている事業の見積もり手法の見直し ・弾力的な予算執行を可能とする予算措置 ・市民ニーズへ的確に対応した補助金の再構築等	**320百万円**
公共施設の最適化	・受け取れるサービスの質を充実させたうえで、総量削減及び維持管理の効率化 ・施設において提供される機能の集約化・複合化等	**－**
公債費負担の 平準化	・長期的な視点から必要な基金積立の規模や投資事業を推進するための財源確保と公債費負担の平準化の方策を定めた未来投資戦略の策定	**－**

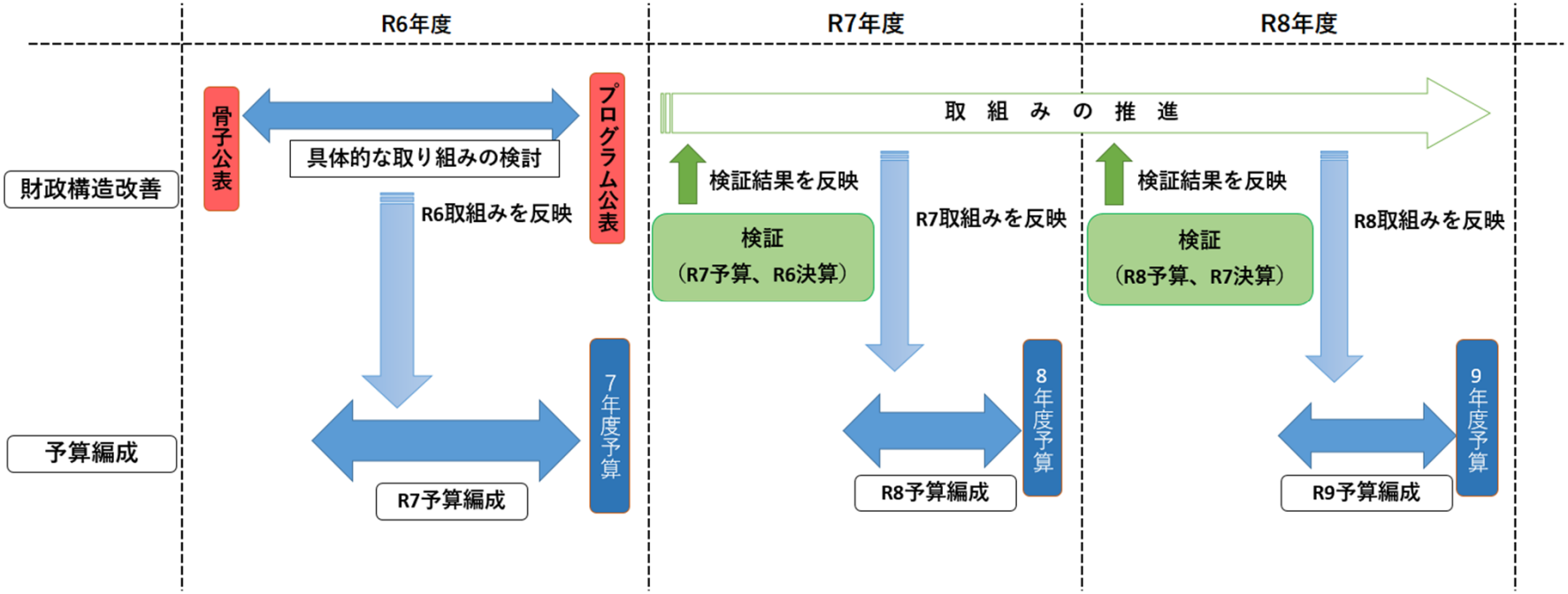
３財政構造改善の骨子

（5）主な取り組みと目標効果額等

主な取り組み		R7効果額（対前年比）	R8効果額（対前年比）	R9効果額（対前年比）	目標効果額（対R6年度比）
歳入の増	ふるさと納税の拡充	35百万円	40百万円	50百万円	**125百万円**
	受益者負担の適正化		99百万円		**99百万円**
歳出の減	内部事務の見直し	7百万円	7百万円	3百万円	**17百万円**
	総人件費の抑制	15百万円	10百万円	10百万円	**35百万円**
	窓口改革の推進	3百万円	31百万円	12百万円	**46百万円**
	事務事業の最適化	250百万円	20百万円	50百万円	**320百万円**
長期	公共施設の最適化				―
	公債費負担の平準化				―
単年度効果額合計額		**310百万円**	**207百万円**	**125百万円**	**642百万円**
(a)財政調整基金取崩額（上限）		**600百万円**	**400百万円**	**250百万円**	**1,250百万円**
(b)財政調整基金積立額		**250百万円**	**250百万円**	**250百万円**	**750百万円**
（b）ー（a）差引額		**▲350百万円**	**▲150百万円**	**0**	**▲500百万円**

※「こどもを核としたまちづくり」における重点施策等については、上記取り組みの効果と基金の活用（取り崩し）を財源に実現する。

４今後の流れ



R6年８月	財政構造改善（骨子）の公表
R6年９月～12月	取り組み（骨子）の具体化
	新たな取り組みの検討
R７年２月	財政構造改善プログラムの公表

５効果の検証と進行管理

（１）効果の検証

・毎年度において予算と決算の結果を確認し、効果額の達成状況を検証する。

（２）進行管理

・効果の検証内容によっては必要に応じ、目標達成に向けた取り組み内容を見直す（最適化）。